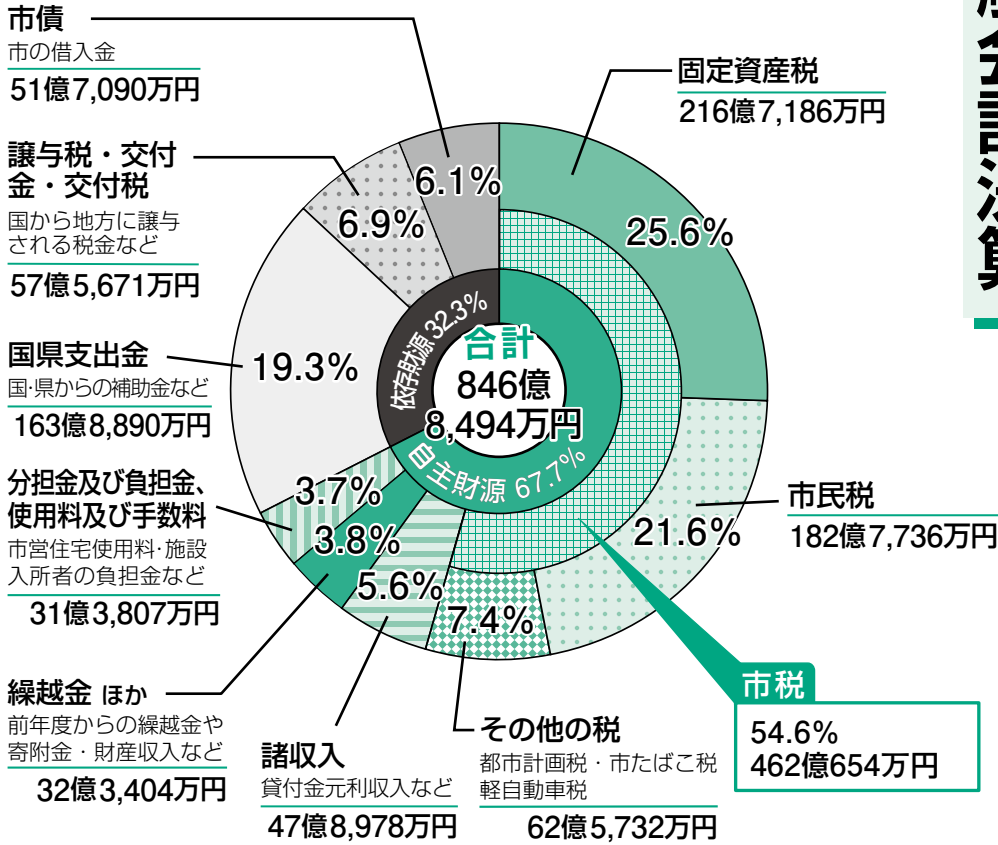


歳入 846億8,494万円

一般会計決算



平成25年度 決算 報告

皆さんの納めた税金が、この1年間でどのように使われたのかを確かめてみましょう。

歳入 499億 537万円 / 歳出 490億 6,947万円

富士市には18の特別会計がありますが、表中では財産管理特別会計(全11会計)を省略しています。

特別会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	276億 3,672万円	270億 7,685万円
後期高齢者医療事業	41億 11万円	40億 9,087万円
介護保険事業	159億 8,800万円	158億 7,305万円
新富士駅南地区土地区画整理事業	8億 5,759万円	8億 4,611万円
第二東名IC周辺地区土地区画整理事業	9億 1,615万円	9億 1,022万円
駐車場事業	7,421万円	7,321万円
公共用地先行取得事業	9,885万円	9,885万円

特別会計決算

水道事業

事業収益合計
28億 5,085万円
事業費用合計
27億 4,387万円
純利益
1億 698万円

公共下水道事業

事業収益合計
54億 2,045万円
事業費用合計
54億 3,380万円
純損失
-1,335万円

病院事業

事業収益合計
123億 2,559万円
事業費用合計
125億 6,435万円
純損失
-2億 3,876万円

企業会計決算



◆用語の説明◆

歳入

年度内に入ってきたお金

歳出

年度内に使ったお金

自主財源

市が独自に徴収することができるお金。市民税、固定資産税、使用料や手数料など

依存財源

国や県などから入ってくるお金。国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税、地方消費税交付金、市債など

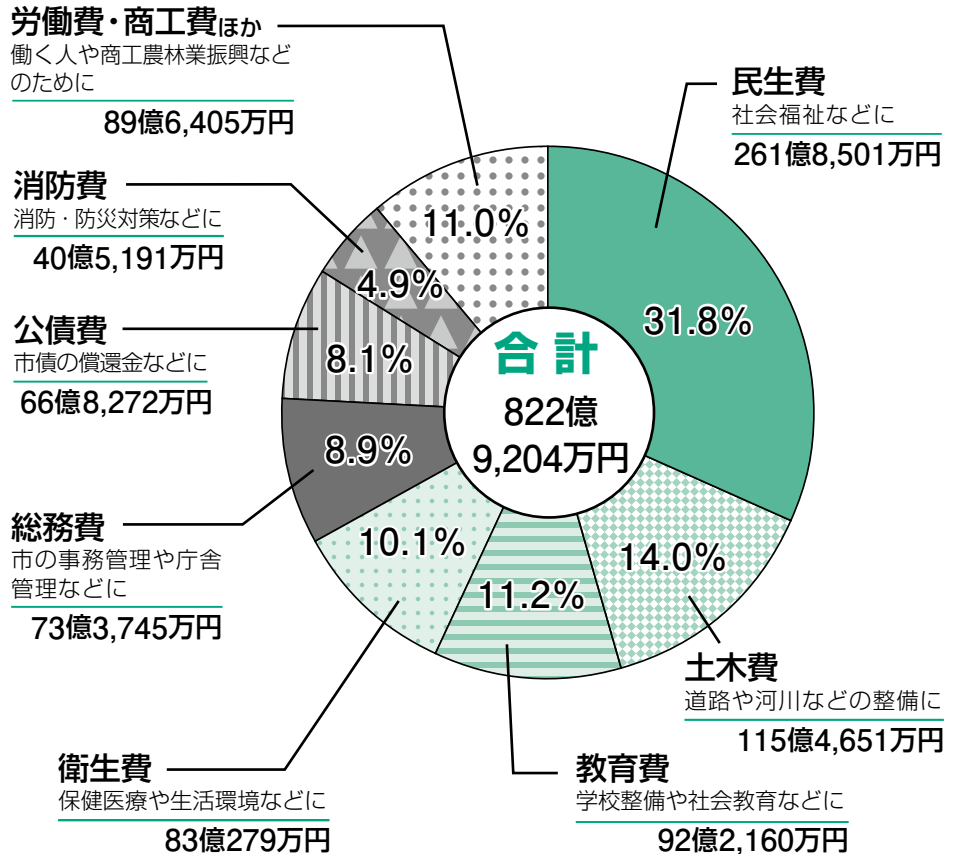
市債

市が大きな建設事業などを行うために、国や銀行などから長期にわたって借りるお金

国県支出金

特定の事業の財源として、国や県から交付されるお金

歳出 822億9,204万円



1か月の家計簿に置きかえると

支出	
食費 (市職員の人件費)	6万9,000円
医療費・介護サービス利用料 (医療費・生活保護などの扶助費)	6万8,000円
ローン返済 (市債の返済金である公債費)	3万2,000円
家や庭の大きな修繕、家財購入 (福祉施設・教育施設・道路・公園の整備などの投資的な経費)	6万6,000円
学費・光熱費・日用品 (施設管理の物件費・維持補修費など)	8万5,000円
子どもへの仕送り (特別会計・企業会計への繰出金など)	7万4,000円
貯金 (積立金)	5,000円
合計	39万9,000円
余剰金	1万1,000円

収入	
給料 (市税、地方交付税など)	25万2,000円
パート代 (分担金、負担金、使用料、手数料など)	4万円
親からの援助 (国県支出金)	7万9,000円
家や庭の大きな修繕のための金融機関からの借入 (市債)	2万5,000円
敷地を駐車場として貸している賃料や株・預貯金の利子 (財産収入など)	1,000円
前の月の余剰金 (繰越金)	1万3,000円
合計	41万円

※()内は会計項目です。
 ※富士市の決算を月収41万円(年収500万円)の家計に置きかえています。

歳入の5割以上は市税

歳入の5割以上は、市民の皆さんや企業に納めていただいた市税です。平成25年度の市税の決算額は約462億円、前年度に比べて約2億円の減少となりました。

これは、県からの税源移譲により市たばこ税が約2億円増収となる一方、実効税率の引き下げなどにより法人市民税が4億円減収したことが主な要因に挙げられます。

歳出は民生費が1位

歳出は、目的別に見ると、福祉関係の費用である民生費が約3割を占め、最も多くなっています。

民生費は、本格的な少子高齢社会の到来を受け、今後も高水準で推移することが見込まれます。

富士市の財政状況

★矢印は前年度からの変化です。
 …前年度から改善されたもの
 …前年度より悪化したもの

一般会計の市債残高

自治体の借金の残高
 過去最高額は平成8年度の757億円です。
 対象事業費の減少などにより、新規借入額が減ったため、減少しました。

696億円→691億円

プライマリーバランス基礎的財政収支

市債と繰越金及び基金の取り崩しを除いた歳入と、市債の償還費用と基金積立金を除いた歳出の差
 市債(借入金)の償還額の増加や、新規借入額の減少により、黒字になっています。

1.6億円の赤字
 →4.4億円の黒字

実質公債費比率

実質的な公債費(市債の元利償還金)が財政に及ぼす負担をあらわす指標
 18%を超えると、新たな借金には県の許可が必要になります。
 ロゼンアター建設時の借入金の償還が終了したことなどにより、低下しました。

5.8%→4.9%

財政力指数

財政の豊かさを示す指標で、国が定めた基準の需要額と収入額の比率
 1を下回ると国から普通交付税が交付されず。

0.988→0.986

将来負担比率

自治体が将来支払う可能性がある負債の収入に対する比率
 引き続き、早期健全化基準(350%以上で早期健全化団体になる)を大きく下回っています。

56.8%→55.0%

経常収支比率

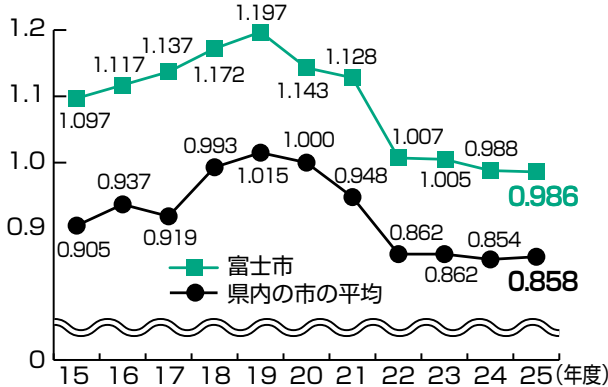
市税など毎年度収入される財源のうち、義務的な経費など、毎年度支出される経費に充てた割合
 県内の市の平均は、平成25年度で84.8%です。

81.7%→82.6%

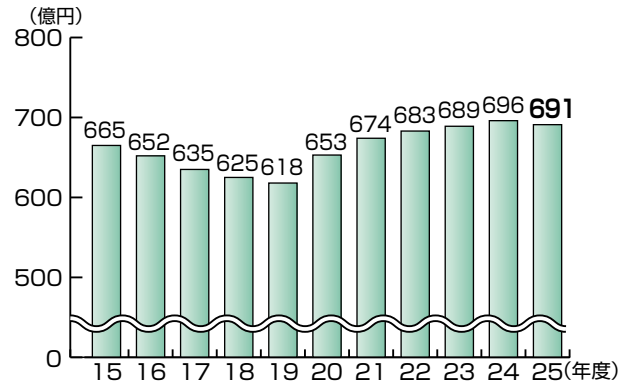
公債費(借金の返済費用)は減少したものの、扶助費(住民の福祉を支える経費)や補助費(補助金など)が増加したため、上昇しています。

財政状況の推移

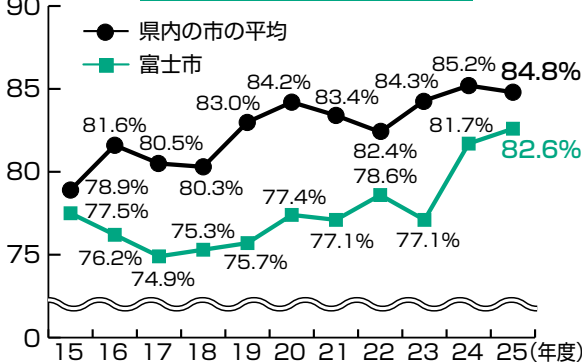
財政力指数の推移



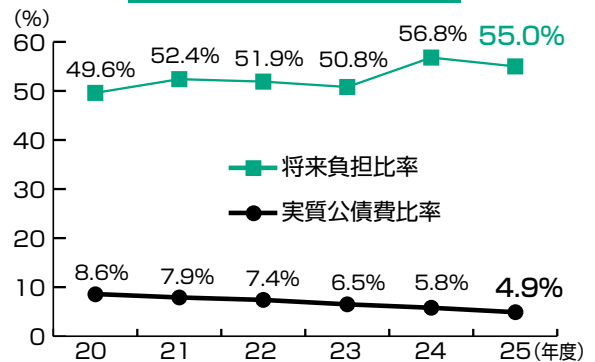
市債残高の推移



経常収支比率の推移



健全化判断比率の推移



皆さんの税金はこのように使われています 平成25年度実施事業の一部を紹介

民生費


●児童手当支給事業

45億8754万円
中学校修了前までの子どもが対象。延べ42万731人に支給

●こども医療費助成事業

7億8193万円
82人に助成
7808人が対象。延べ52万9582人に助成

●放課後児童クラブ建設事業

1億137万円
富士北児童クラブ、松風児童クラブ（平成25・26年度）

富士北児童クラブ

●私立保育園施設整備助成事業

1億2437万円
認定こども園を整備する事業者に対しての助成など

土木費

●コミュニティバス等運行事業

6371万円

●本市場大淵線整備事業

5億6543万円

衛生費

●予防接種事業

6億385万円

4種混合、日本脳炎、インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンなど。接種人数延べ11万2857人

●がん検診推進事業

2億8054万円

受診人数延べ7万1385人

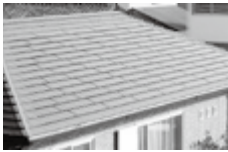
●浄化槽設置助成事業

2億7923万円

設置数385基

●新エネルギー・省エネルギー普及事業

6420万円

太陽光発電設備などを設置する市民・中小企業者に対する助成など

太陽光発電設備

消防費

●消防車両整備事業

5192万円

水槽付消防ポンプ自動車の更新（西消防署南分署など）

●消防第16分団詰所整備事業

7335万円



水槽付消防ポンプ自動車

●津波対策事業

2447万円

●防災無線整備事業

1億2188万円

フルデジタル同報無線受信局44局の取りかえ、松野地区の防災ラジオ2000台の製作など

商工費


●企業立地推進事業

10億4165万円

企業立地促進奨励金80件

●観光施設整備事業

3961万円

富士山しらす街道観光トイレ設置など

観光トイレ(富士山しらす街道)

教育費

●丘小学校校舎増築事業

8億40万円

●小・中学校校舎等耐震化事業


3億9806万円

●高等学校生活館改築事業

2億3801万円

●文化会館管理事業

5億1643万円

ロゼシアターの管理運営、自主事業に対する助成

丘小学校南校舎

総務費

●防犯まちづくり事業

5670万円

防犯用街路灯の設置、維持管理経費の町内会に対する助成など

●まちづくりセンター運営事業

8億2452万円

26か所あるまちづくりセンターの運営及び施設管理など

※決算報告について詳しくは市ウェブサイトをのぞいてください。
【問い合わせ】 財政課 ☎(55)2725 (53)0909